# 寅さん歩　その 14
# *東京に　こんなところ*-19

平野　武宏

首都東京は徳川幕府の江戸から明治維新へ、そして関東大震災・太平洋戦争の被災で壊滅から復興、1964 年（昭和 39 年）の東京オリンピックによる街並み・交通網の再整備と時代と共にその姿を変えています。そして 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、更に近代的な姿に生まれ変わろうとしています。

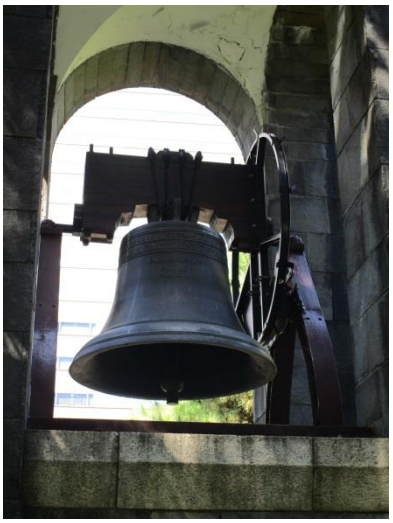
「寅さん歩」で東京を歩き回っている寅次郎は「東京に　こんなところもあるのだ！」と思わせる場所に出会い、感動しています。新シリーズとして取り上げ、紹介します。

都民歴約 5 年の「寅次郎基準」で選んでおりますので、ご容赦ください。最寄り駅は代表例です。

## ～日比谷公園と周辺～　最寄駅　三田線　日比谷駅

寅次郎にとって日比谷公園は青春時代のカップルのメッカ、又 50 歳代で始めたウォーキングでは園内の健康広場が集合場所となり、何度か訪れています。東京に移住して初めて見た雲形池の紅葉・黄葉には感動しました。公園の方から案内を受ける機会があり、まだまだ知らなかったことを学びました。公園内の「自由の鐘」（テニスコートの上）は今でも正午に鳴らされていると初めて知った次第です。

### ［自由の鐘］



説明板には『自由の鐘は 1776 年米国の独立宣言に際して、自由の喜びを天下に告げた歴史的記念物である。この鐘はその鐘銘の聖句にもある通り「すべての国とその住民に自由を告げる」自由の象徴である。米国民間の匿名有志はその複製を連合国総司令官リッジウェイ大将に託し、これを広く日本国民に贈りたいと申し出た。よってリッジウェイ大将は自由の擁護者たる新聞を通じ、広く日本国民に贈ることが、最も寄付の趣旨に副うものとして、昭和 27 年(1952 年)4 月　日本新聞協会に寄贈された。
日本新聞協会は日比谷公園の一角に自由の鐘塔を建造して、これを東京都に寄贈し、広く国民と共に自由の鐘の歴史的意義を銘記せんとするものである』と記載。その後、この鐘の音色をよみがえらせるため、中央大学辞達学会卒業生有志が修復募金委員会を立ち上げ、故　林勇二氏の 1 千万円を始めとして 1 千円募金に応じた有志達の献金で修復され、平成 23 年(2011 年)10 月 1 日に 60 年ぶりに鐘が打ち鳴らされ、この日から毎日美しい鐘の音を響かせています。

## [日比谷見附跡]

公園パンフレットには「日比谷交差点の有楽門を入ってすぐ左手にあるこの石垣は江戸城警備の城門(見附)の一つ、日比谷見附の一部です。公園の北西にほど近い桜田門を見ればよくわかりますが、かっての日比谷見附もまた、高麗門や枡形、渡櫓、番所などを備えていました。本田静六博士(日比谷公園を設計・造成した人)は残された石垣や堀を巧みに生かした設計を行うことで、日比谷公園特有の魅力を生み出すことに成功しています」と記載。
今までは横目に見て脇を通り過ぎていた日比谷見附跡に上り、上から新しい日比谷公園の姿（写真下右）を見た寅次郎です。

見附跡の上を奥まで歩き、下りると積まれた石に工事を担当した大名のものと思われる印が記されていました。

寅さん歩　その 12　東京の紅葉・黄葉-1 および
寅さん歩　その 15　江戸・東京（23 区）の百名山-11
　に日比谷公園の記載があります。参照ください。

## ［鹿鳴館跡］

日比谷公園の前の日比谷通り　帝国ホテルの近くに、鹿鳴館跡の表示があるとは知っていましたが、見たことはありませんでした。帝国ホテルの隣にあるＮ＆Ｆ日比谷ビルの塀に表示を見つけました。下の写真の黒い石板で、後の建物は帝国ホテル。

黒い石板には

鹿鳴館跡

ここはもと薩摩装束屋敷跡であって、その黒門は戦前まで国宝であった。この中に明治 16 年鹿鳴館が建てられ、いわゆる鹿鳴館時代の発祥の地となった。

千代田区

と記載。

薩摩藩装束屋敷とは薩摩藩の中屋敷のことで、江戸時代に琉球の使節が江戸城訪問の際、ここで装束を替えたので装束屋敷と呼ばれたとのこと。
鹿鳴館跡の表示の石は大理石でしたが、華やかな鹿鳴館跡としては少々物足りない案内表示でした。

## ［内幸町 界隈］

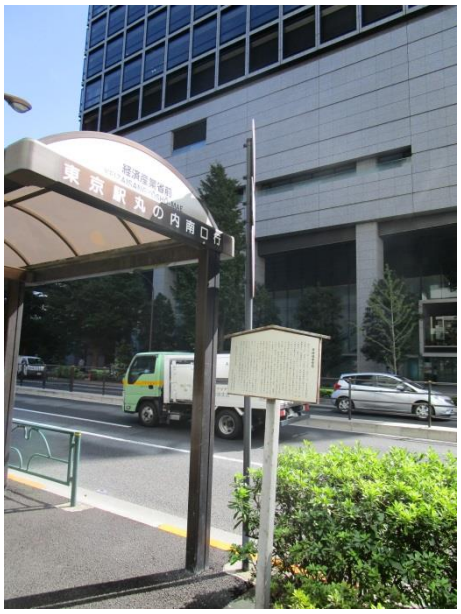
鹿鳴館跡から国会通りへ出て、左折すると、内幸町ビルの対面に「内幸町界隈」の説明板がありました。江戸開府 400 年で整備されたようです。

説明板には「この界隈は江戸時代の初期から大名屋敷が置かれていました。絵図にも、見られるように、陸奥白河藩阿部家、薩摩鹿児島藩島津家、肥前小城藩鍋島家、大和郡山藩柳沢家、日向飫肥藩伊東家、石見津和野藩亀井家の上屋敷がありました。
明治 5 年（1872 年）阿部家、島津家、鍋島家の上屋敷を合併して内山下町一丁目、柳沢家、伊東家、亀井家の上屋敷を合併して内幸町一丁目となりました。内山下町、内幸町という町名は山下御門、幸橋御門の内側に位置していたことに由来しています。
明治時代の内山下一丁目には内務大臣官舎や鹿鳴館、帝国ホテル、内幸町一丁目には東京府庁や社交クラブの東京倶楽部などがありました。鹿鳴館は明治 16 年（1883 年）政府により現在の大和生命保険株式会社（内幸町 1-1-7）の場所に建設されました。
外国貴賓や政府高官などが集まり、舞踏会や演奏会で賑わいましたが、明治 27 年（1894 年）華族会館に払い下げられました。
また東京府庁は同じく明治 27 年　内幸町から有楽町二丁目

（現丸の内三丁目）移転しました。昭和 13 年（1938 年）区画整理により、内山下町一丁目と内幸町一丁目の東側が合併し新たに内幸町一丁目となり、内幸町一丁目の西側は内幸町二丁目となりました。かっては上流階級の社交場であったこの町は戦後多くの企業が名を連ねるオフィスビルなどに姿を変えました。

平成 16 年 6 月　内幸町町会」と記載。

## ［旧帝国議事堂跡］




日比谷公園を「西幸門前」の交差点側の出口からを虎の門方面に向かうと「経済通産省」バス停前に旧帝国議事堂跡の説明板がありました。バス停の後側が経済産業省の玄関です。

説明板には「明治 22 年（1889 年）2 月 21 日大日本帝国憲法が発布され、翌年 11 月第一回帝国議会が開かれました。議事堂は仮議事堂として当地（旧麹町区内幸町二丁目一番地）に建てられました。11 月 25 日初の議会招集、11 月 29 日　明治天皇臨席のもとに開院式が行われました。

ところが会期中の翌年 1 月 20 日　衆議院から出火、ペンキ塗り木造建物のためほとんど全焼してしまいました。このため貴族院は華族会館（元鹿鳴館）に移り、衆議院は東京女学館に移ったといいます。

焼失跡への議事堂は明治 24 年 11 月完成しました。建物坪数は両院あわせて 3, 194 坪、木造 2 階建てでありました」と記載。（記載内容一部略）

西幸門交差点からは現在の国会議事堂が望めます。（写真右）

## ［こぼれ話］ 緑で都市を冷やしています！

日比谷公園内で見つけました。2020 年の東京オリンピックの開催は盛夏です。都市の暑さ対策に向けた緑化技術の公開テストが日比谷公園で 8 月 5 日～9 月 24 日まで実施されていました。どんなテスト結果が出るのか楽しみですね。

次回は　お江戸の閻魔大王-8（最終回）です。

平野　寅次郎　拝